

高等学校

平成 4 年 度

教育 研究 員 研究 報告 書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究内容	2
1	新学習指導要領における人間としての在り方生き方に関する教育の視点	2
2	高等学校家庭科における人間としての在り方生き方に関する教育	2
3	実態調査	4
	(1) 「在り方生き方」に関する生徒の実態調査	4
	(2) 「在り方生き方」に関する指導等の実態調査	6
4	指導計画と指導上の配慮事項	7
5	指導事例	8
	(1) 職業調査を通して生活設計を考えさせる事例	8
	(2) 広告やカタログの検討を通して、意志決定能力を高めさせる事例	11
	(3) 豊かで充実した食生活について考えさせる事例	14
	(4) 住居の在り方を通して、家族のつながりについて考えさせる事例	16
	(5) 結婚についてのディベートを通して、今後の生き方を考えさせる事例	18
	(6) ロールプレイングを通して親の在り方考えさせる事例	21
III	研究のまとめと今後の課題	24

平成4年度

教 育 研 究 員 名 簿

学 校 名	氏 名
都立国際高等学校	坂本 宜子
都立京橋高等学校	館 静子
都立八王子東高等学校	高橋 和子
都立八王子高陵高等学校	吉沢 淳子
都立武蔵村山高等学校	小澤 栄子
都立五日市高等学校	山本 由美子

担当 指導部主任指導主事 今成 昭

指導部高等学校教育指導課指導主事 羽野 みき子

男女で学ぶ家庭科の指導内容・方法の研究

－ 人間としての在り方生き方を考えさせる家庭科の指導 －

I 主題設定の理由

今回の高等学校学習指導要領の改訂に見られる新しい改革の方向は、第一に基本的な人間形成の在り方であり、第二に新しい時代の変化に対応した教育の在り方である。

情報化、国際化、高齢化など社会の急激な変化に伴い、学校や生徒を取り巻く状況は大きく変化し、生徒の生活や意識は多大な影響を及ぼされている。生活様式が多様化するとともに、生活体験の不足や対人関係の希薄化によって発達課題が十分達成されていない傾向も見られ、青少年の自我の形成の遅れ、社会的連帯感や責任意識の低下などが指摘されている。

従って、これからの高等学校教育においては、このような実態を踏まえ、生徒一人一人が人間としての調和のとれた発達を図り、自らの行動を主体的に選択し自己実現を目指すことのできるよう学校の教育活動全体を通して各教科及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、人間としての在り方生き方に関する教育を推進することが重要な課題となっている。

一方、高等学校家庭科は、新学習指導要領によって、すべての生徒が学ぶ教科として位置づけられ、新しい時代を迎えることとなった。これからの家庭科教育の課題として、①家庭の在り方を考え、家庭生活は男女が協力して築いていくものであることを再認識させること ②家庭が、子供の成長・発達にとってきわめて重要な場であることを確認させること ③充実した人生を送るための生活の自立、福祉の心、自己実現を図ろうとする意欲的、創造的な態度を育てること ④自分の身の回りのことだけでなく、広い視野に立って人間の生活を考えることができる能力を培うこと、などが挙げられている。従前の女子のみの家庭科教育も人間づくりの教科として大きな役割を果たしてきたが、新しい家庭科教育は、男女の別なく人間が人間らしく生きていくための最も基本的な学習課題を担っているといえる。

そこで本年度は、家族や家庭生活に関する学習を通し、生活の設計を踏まえた自己の生き方を考え、豊かな心を持ち、家族や家庭生活の向上のため、さらに広く人間社会のために進んで力を尽くそうとする態度を養うことを目的とし、上記研究主題を設定した。

そのため、実践的・体験的な学習を通して、生徒自身に実生活を見つめさせ、生活に対する見方や考え方を育てるとともに、将来の生き方を考えさせ、生活の目当てを自分の力で創りだし、主体的な生き方ができるよう、調査、ロールプレイング、シミュレーション・ゲーム、ディベートなどの多様な指導方法を工夫することとした。

Ⅱ 研究内容

1 新学習指導要領における人間としての在り方生き方に関する教育の視点

新学習指導要領の第1章総則に、人間としての在り方生き方にかかわる内容として、「生徒が自己探究と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行う」とあり、各教科・科目、特別活動においてその視点を下図のように示している。

各教科・科目等における人間としての在り方生き方に関する教育の視点

教科等	目標や改訂の方針等	内容の取扱い
国語	心情を豊かにし表現力を養う。	古典及び近代以降の文章を通して学ばせる。
地理歴史	我が国及び世界の文化や伝統を尊重する態度を養う。	情報を主体的に活用する。作業的、体験的学習を取り入れる。
公民	個人、集団、社会に対する理解を深め、公民としての資質を養う。	情報を主体的に活用する。作業的、体験的学習を取り入れる。
数学	論理的な思考や処理する能力を養う。	事象を数学的に考察し処理することを通して学ばせる。
理科	観察・実験を通して自ら考え探求する態度を養う。	探求的活動や課題研究を通して学ばせる。
保健体育	健康・安全に配慮して自主的に健康な生活を実践する能力を養う。	特別活動、運動部活動などの関連を図る。
芸術	情操を豊かにし、芸術を愛する心情を養う。	主体的な学習活動を通して学ばせる。
外国語	コミュニケーション能力を養い、世界や我が国についての理解を深める。	世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語などを通して学ばせる。
家庭	家庭生活の意義を理解させその充実向上をめざす。重点内容(生活設計、高齢者の生活、消費生活、青年期の生き方、親の役割等)	主体的、実践的に学ばせる。
特別活動	個人や集団、将来の生活について考える。	自主的、実践的な活動をさせる。

注：公民 新学習指導要領で特に重視している教科等

2 高等学校家庭科における人間としての在り方生き方に関する教育

家庭科は、今回の改訂で、家庭を取り巻く環境の変化に対応し、次のような内容の改善が図られた。

- ①子供の基本的な生活習慣の確立や生活の自立の遅れなどに対応し、家庭の機能の回復を図るため、親としての役割についての内容の充実
- ②人間としての在り方生き方に関する教育を重視することに対応し、青年期の生き方に関する内容の充実

- ③高齢化の進展に対応し、高齢者への理解を深めるため、高齢者の生活に関する内容の充実
- ④経済の発展、消費生活の変化、サービス経済化などに対応し、消費者としての自覚を高めさせるために、消費生活に関する内容の充実

また、新しい家庭科は、家庭教育や家庭生活の充実が人間づくりの基盤であることを再確認し、人が人として、子として、親として、家族としてなど、それぞれの立場から、共に生きる他の人の立場も考え、豊かな心をもった人間を育てようとしている。

さらに、消費者教育を通して、物の価値をいとおしみ、金銭では得られないものの存在を知り、自分の判断に基づいて自己を律することのできる人間の育成もねらっている。

研究を進めるに当たって、高等学校家庭科における在り方生き方教育の指導の指針として、ハヴィガーストの青年期の発達課題に注目した。

学校における教育活動を進めるとき、教師は適切な生徒理解の上に立って、発達課題を適時に獲得するための援助者として努力することが必要であると思われるからである。

そこで、ハヴィガーストの青年期の発達課題を踏まえ、高等学校家庭科における発達課題を作成し、これを本研究及び授業研究の中心に据えることとした。

ハヴィガーストの青年期の発達課題
(出典 中西信男編
人間形成の心理学ライフサイクルを解明する。)

- ①同年齢の男女との間に新しいより成熟した関係を結ぶこと。
- ②男性としてのあるいは、女性としての社会的役割を達成すること。
- ③自分の身体を受容し、身体を有効に使うこと。
- ④両親や他の成人から情緒的に自立すること。
- ⑤結婚および家庭生活の準備をすること。
- ⑥職業生活の準備をすること。
- ⑦行動の指針としての価値観や倫理体系を身につけること。
- ⑧社会的に責任ある行動を求め、そして、それを成し遂げること。

高等学校家庭科における発達課題

- (1) 心身の健康・安全に努め、生涯にわたって持続できるようにする。
- (2) 将来の生活を見通した家族観、結婚観、職業観をもつようにする。
- (3) 広い視野に立ち生活環境をととのえ、自ら考え判断し行動できるようにする。
- (4) 人と人のかかわりの重要性に気付き、幅広い人間観をもつようにする。
- (5) 親の役割について理解し、自覚する。
- (6) 衣食住などに関するくらしの技術を身につけ、時代の変化に応じて創造できる力をつける。

3 実態調査

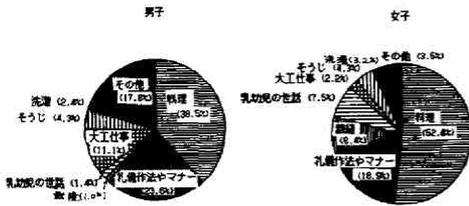
(1) 「在り方生き方」に関する生徒の実態調査

①ねらい 在り方生き方に関する生徒の意識を調査し、研究資料とする。

②対象・実施時期 都立高校6校 生徒524名(男216,女308),平成4年10月

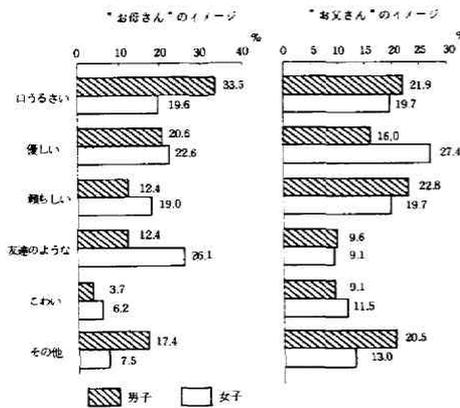
③調査結果

ア 身に付けたい生活に関する知識・技術



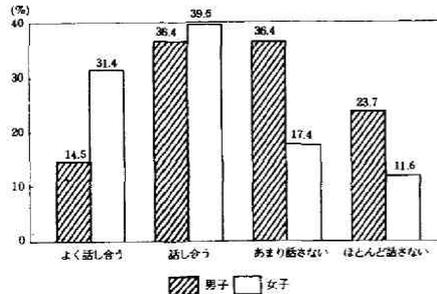
- ・男女共に「料理」が多く、全体の½を占め、次いで「礼儀作法やマナー」で、特に男子に多く意外であった。「裁縫」「乳幼児の世話」は男女差があった。
- ・全体的に食生活の知識・技術は身に付けたいが、他の項目への関心は低い。

イ “お母さん” “お父さん” についてのイメージ



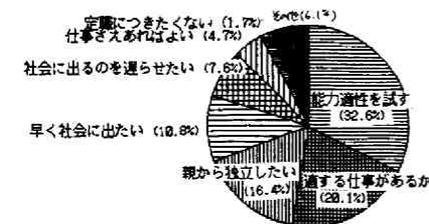
- ・母親に対するイメージでは、男子は「口うるさい」が多く、女子は「友達のような」「優しい」が多かった。父親に対するイメージでは、男子は「頼もしい」「口うるさい」が多く、女子は「優しい」が多かった。共に男女差が見られた。
- ・同性の親と異性の親に対するイメージの違いの差ははっきり現れていた。

ウ 食事の時の家族での話し合い



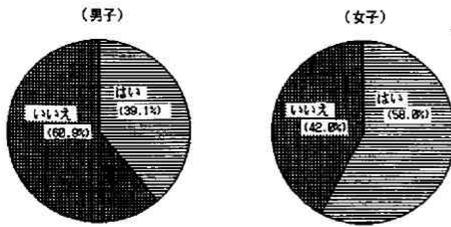
- ・男子は「あまり話し合わない」「ほとんど話し合わない」が多く、女子は「よく話し合う」「話し合う」が多く、男女差があった。特に男子は食事の時に家族と話さないことが分かった。

エ 社会に出て働くことについて



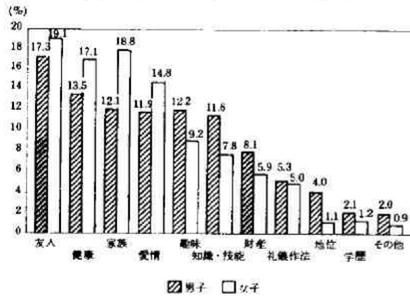
- ・「能力適性を試したい」が最も多く、次いで「自分に適した仕事が見つかるか不安」「早く親から独立したい」となっている。

オ 結婚や将来の家族の構想



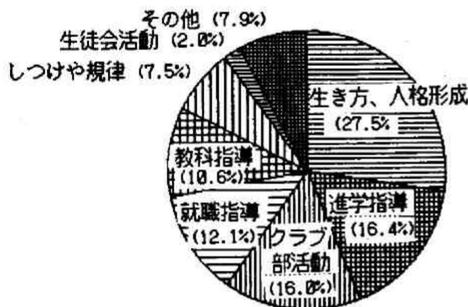
・結婚や将来の家族について考えたことがある生徒は、全体としては半数となっているが、女子の方が特に将来の家族等を現実的に考えているようである。

カ 生きていく上で大切なもの



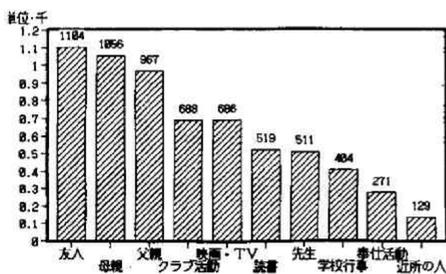
・男女共に「友人」が最も多い。女子は次いで「家族」「愛情」をあげ、男子は「趣味」「知識・技能」「財産」となっている。
 ・女子は対人的なこと（人間関係）を考えているが、男子は個人的なこと（自分自身）を考えている。

キ 学校教育に期待するもの



・男女共に、 $\frac{1}{4}$ 以上が学校教育に「生き方、人間形成についての指導」を求めている。平成3年1月実施の全国「倫理」「現代社会」研究会の全国調査「高校生の意識と生活に関する調査」とほぼ同じ結果となっており、学校教育の中で、生き方・人格形成にかかわる学習の機会を求めていることが分かった。

ク 考え方・生き方への影響度



・まわりの人やでき事からの影響度の強さを3, 1, 0の3段階に分けて選ばせた結果は、次の表のようである。影響度の高いものは、やはり友人であり、次いで母親、父親、クラブ・部活動、映画・TVとなり、家族等の身近な所から強く影響を受けていることが分かった。

ケ どんな生き方をしたいか

自由記述で回答させたところ、男女共に「自由に生きる」「他人に縛られたくない」「楽しく生きる」という内容が圧倒的に多かった。次いで「自分らしく生きる」「後悔しないように生きる」となった。しかし具体的な生き方や信条を答える生徒はほとんどいなかった。

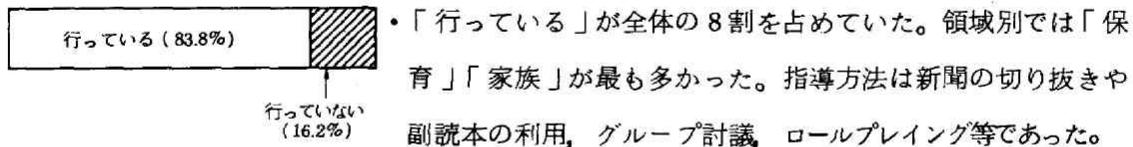
(2) 「在り方生き方」に関する指導等の実態調査

①ねらい 「人間としての在り方生き方を考えさせる家庭科の指導」についての教師の意識の実態を把握する。

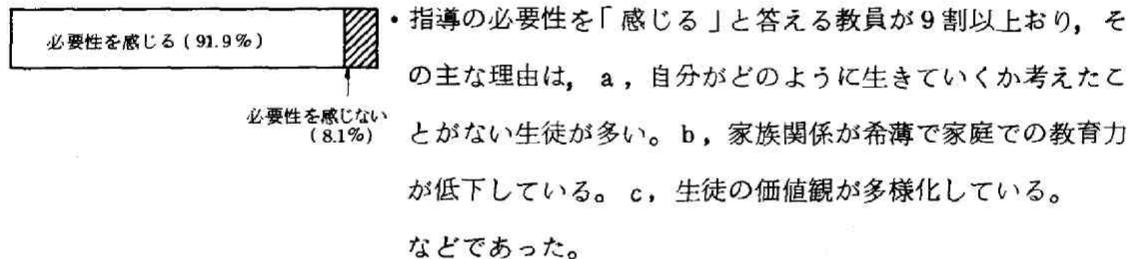
②調査対象と実施時期 東京都高等学校家庭科教育研究会に属する教師37名
平成4年11月

③調査結果

ア 「人間としての生き方」を考えさせる指導の実施状況



イ 高校家庭科教育の中で「人間としての生き方を考えさせる指導」の必要性について



(3) 実態調査の考察

①生徒の実態調査の結果より、女子は結婚や将来の家族について構想を持っているが、男子は持っていないものが多かった。女子は家庭科で家族・家庭の在り方や結婚等について学習する場があるが、男子にはその場がなく、自分を取り巻く人間のことまで考えが及んでいないことが分かった。高校生の段階での学習の機会の必要性が明らかになった。

②高校生が学校教育に期待するものとして、「生き方、人格形成についての指導」が一番にあげられた。この背景には、高校生の人間関係の狭さ、希薄な家族関係、家庭の教育力の低下等があることが分かった。

③価値観の多様化の中で、どのように生きていくのかの指針がつかめない高校生の姿が浮き彫りになり、その指導の必要性を痛感した。

④社会に出て働くことについて、社会に出て自己を試し、親からの自立を願っている一方で、将来に対する不安感も同時に持っていることが分かった。

⑤社会の変化やそれに伴う生徒の実態等から、家庭科で「在り方生き方」の指導を扱う必要性が教師のアンケート調査より確かめられた。

4 指導計画と指導上の配慮事項

高等学校家庭科における人間としての在り方生き方教育は、前述の高等学校家庭科を指導する上での発達課題を生かして指導計画を作成するが、次の2点を配慮することとした。

- 生徒の意識調査より生徒自身が、学校に生き方や人格形成にかかわる学習の機会を求めていること
- 高等学校家庭科の指導のなかで、既に九割近くの家庭科担当教師が人間としての生き方教育を実践しており、またその指導分野は多岐にわたっていること

したがって、人間としての在り方生き方を考えさせる家庭科の指導は、あらゆる分野で行うこととし、高校家庭科における発達課題と指導内容との関連、及び開発した指導事例と発達課題との関連を、次のようにまとめた。

高等学校家庭科における発達課題と指導内容及び開発した指導事例との関連

(1)心身の健康・安全に努め、生涯にわたって持続できるようにする。	衣・食・住生活の設計と管理や技術	事例1 職業調査を通して生活設計を考えさせる。
(2)将来の生活を見通した家族観、結婚観、職業観をもつようにする。	家族と家庭生活 保育	事例2 広告やカタログの検討を通して、意志決定能力を高めさせる。
(3)広い視野に立ち生活環境をととのえ、自ら考え判断し行動できるようにする。	家庭経済と消費、家庭生活と情報 家庭生活と電気・機械	事例3 豊かで充実した食生活について考えさせる。
(4)人と人のかかわりの重要性に気付き、幅広い人間観をもつようにする。	家族と家庭生活、保育 衣・食・住生活の設計と管理や技術	事例4 住居の在り方を通して、家族のつながりについて考えさせる。
(5)親の役割について理解し、自覚する。	保育	事例5 結婚についてのディベートを通して、今後の生き方考えさせる。
(6)衣食住などに関するくらしの技術を身につけ、時代の変化に応じて創造できる力をつける。	衣・食・住生活の設計と管理や技術	事例6 ロールプレイングを通して、親の在り方考えさせる。

なお、指導に当たっては次のことに留意することとした。

- ア 他教科との関連を図り、系統的に学習できるよう考慮し指導計画を作成する。
- イ 生徒の興味・関心や生活実態に配慮して、身近な題材を取り上げる。
- ウ 他の意見を聞くとともに、自らの考えを深めさせるよう、ディベートやグループ学習などを取り入れ、生徒同士の意見交換や発表等を導入する。
- エ 実験・実習、調査、観察、ケース・スタディ、シミュレーション・ゲーム、ロールプレイングなど、実践的・体験的学習方法を導入する。
- オ 視野を広げ、多様な生き方を認め、自分の生き方考えさせるよう、幅広い資料を用意するなど指導方法を工夫する。
- カ 将来の生き方考えさせるとともに、現在の自分の生活の在り方も考えられるよう配慮する。

5 指導事例

〔事例1〕 職業調査を通して生活設計を考えさせる事例

(1) 題材名 職業選択と生活設計

(2) 題材設定の理由 日本人の平均寿命が延びて人生80年時代といわれるようになった。ところが現代の高校生には将来のことはおぼろげにしか見えていない。彼らに自分の人生を現実のものとしてとらえさせ、高校生である今、何をしたらよいのかを考えさせるためにも生活設計は必要である。その中でも職業選択は人生に対する価値観、生活観、経済的な面などに深く関係し、具体的な生き方に大きくかかわってくる。高校生が身近に感じる職業選択を通して、生活設計について考えさせるためこの題材を設定した。

(3) 学習目標 ①職業や勤労に対する関心・理解を深め、働く人達の職業観や人生観を参考にし、自分の将来の職業について考える。

②自分の基本的な生き方や姿勢について考え、生活設計を立てることができる。

(4) 指導計画 ～生活設計(4時間)～

指導内容	時間	配慮事項
1. 生活設計の意義 (1) いろいろな人生 (2) ライフプランニング	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 親、祖父母の人生を聞き、ライフスタイルの変化について知る。 ○ 人生80年の時代、社会の激しい変化の中での生活設計の必要性を理解させる。 ○ 自分の今までの人生をライフプランニング表に記入させ将来を考えるのにどのような要素が必要か考えさせる。
2. 職業選択と生活設計	2時間……本時	

(5) 事前学習 自分の将来就きたい職業について聞き取り調査をし、聞き取り用紙に書き込み事前に提出させる。

(6) 本時の展開

区分	学習内容	時間	指導上の留意点	備考
導入	前時の復習	5(分)	○ 生活設計の意義を思い出させる。	

導 入	本時の目標の確認	5	○前時に書き込みをしたライフプランニング表を完成させるに当たり、これから先の人生で職業選択が大切であるということを理解させる。	ライフプランニング表
展 開	将来就きたい職業インタビューの発表 ・発表者は職業聞き取り調査用紙にしたがって発表する。 ・発表を聞いてワークシートに記入。	40	○生徒によって人生に対する価値観などが違うので発表によって自分の知りたいことをワークシートにまとめさせる。	ワークシート 職業聞き取り調査用紙はあらかじめ提出させ発表者を選んでおく。
	職業と人生の関係を考える。	20	○職業選択が経済的自立、結婚、家族関係などと大きくかかわってくることを理解させる。また、自己実現のための職業選択についても考えさせる。	プリント
	生活設計を考える。 ・これから先の人生をライフプランニング表に記入する。	20	○家族関係や高齢化社会などの要素を考えながら、ライフプランニング表に家族やその周りの状況も記入させる。	
ま と め	生活設計の意義と課題について考える。	10	○生活設計は将来(目標)を実現するために、今しておくべきことを考え実行するというフィードバック機能を中心とした考え方であることを確認させ、高校生の今、何をしておくべきか考えさせる。	

- (7) 評価の観点
- ①将来の職業について考える事を契機に、自らの生活設計をたてること
ができたか。
- ②自分の身の周りの人間のことも考えながらライフプランニングを
することができたか。

(8) 授業後の考察 本時は、第3学年(男子20名、女子23名)で試行的に実施した。ライフプランニング表は自分だけではなく、現在及び将来、自分とかわる人間などの全体の状況を把握することができると考え、この形式を導入した。しかし、生徒のプライバシーにかかわるため慎重に扱うことが必要である。

事前学習の職業聞き取り調査は第3学年が対象であったので進路に対する意識はかなり高かった。しかし、どこに行き、誰と会ったらよいか分からない生徒もあり、こちらから働き掛けをする必要があった。実際に職業調査をしてみて、今まで表面的にしか見ていなかった職業が現実のものとなるとともに、生徒からは、職業と家族との関わりや、生活時間とのかわりが自分のものとしてとらえられたという声が聞かれ、将来に対する具体的な心構え、自分だけで生きているのではないという自覚などが感じられた。

本時は、家族と家庭生活のまとめとして位置付けたが、生活設計をより深く考えさせるためにも家庭経済と消費や、乳幼児の保育など様々な分野と関連付ける必要があると考えられる。

(9) 資料(職業聞きとり調査用紙)

自分が将来就きたい職業の人の話を聞いてみよう			
職業	年齢	男・女	
その仕事に就いたきっかけ			
その仕事に就くための条件(必要な資格、専門的知識)			
仕事の具体的内容			
平均的な一日の生活			
この仕事に就いて良かったこと、困ったこと			

将来の計画

この職業を目指す高校生へのアドバイス

あなたにとって職業のもつ意味

<まとめ>

- ①わかったこと
- ②もっと知りたいこと
- ③感想

年 組 番 名前 _____

〔事例2〕 広告やカタログなどの検討を通して、意志決定能力を高めさせる事例

- (1) 題材名 物資・サービスの購入と消費
- (2) 題材設定の理由 最近の高校生の中には、生活情報があふれている割には、情報の活用方法を知らずまた、それを活用した体験がなく、流行やフィーリングに流され、安易に物資やサービスを購入する者が多く見受けられる。そこで、具体的な物資やサービスの購入を想定し、意志決定の必要性や重要性を理解させるため、この題材を設定した。
- (3) 指導計画 生活情報の活用 4時間(本時 2時間)
- (4) 学習目標 ア 消費者が物資・サービスを購入する際の情報の活用と意志決定をシュミレーションを通して体験する。
イ 費用の調達方法についても併せて考え、各自の目的に合った購入ができるようにする。
- (5) 準備 前時に、各自でスキーツアーのカタログ・パンフレット等の資料を集めて持参させておく。(教師側でもある程度は用意しておく)
- (6) 本時の展開(2時間)

区分	学習活動	時間	指導上の留意点	備考
導入	本時の目標を確認する。	(分) 5	○物資・サービスを購入する際の情報の種類や性質を考えさせる。	
展開	物資・サービスを『購入する』ためのポイント(判断基準)を考える。 テーマを「衣服の購入」として出された意見をグループ毎にKJ法を用いた整理をする。 さまざまな生活情報源を知る。	25	○日頃どのような判断基準で、物資・サービスを購入しているか考えさせる。 ○日常的に購入している物について考え、何に重点を置いて購入するか、判断基準の順位を考えながらカードに書かせる。 ○班で分類し、さらに全体を文章にしてまとめさせる。 ○判断基準がどのような情報源(情報提供)からなされているか、	・KJ法用の分類カード (順位によって色分けする) ・模造紙

展 開	購入演習の進め方の説明を聞く。	20	あげさせてまとめていく。 ○情報源の中から、今回はカタログを中心にした演習をすることを明する。 ○フローチャートを見ながら、全体の流れと意志決定の手順について説明する。	・プリント（フローチャート&意志決定ワークシート）
	『スキー旅行に行く』前提で購入演習を行う。 各自がそのために必要な物資・サービスの購入を、手順を踏んで行う。	45	○ワークシートに自分の条件を書き出させる。 ○自分達で用意した資料を見ながら、自分自身の判断基準をもとに意志決定を進めさせる。 ○意志決定ができた部分は、理由などを記入しながらワークシートを完成させる。	・スキー旅行用のカタログ、パンフレット、雑誌、広告など（意志決定Ⅰ、Ⅱ） ・メーカー、販売店のカタログ、パンフレット、日本地図、CM（VTR）、宅配価格表（意志決定Ⅲ）
ま と め	本時のまとめ（意志決定の重要性の確認）	5	○完成したワークシートを見直して、流れに沿って意志決定ができたら感想を書いて提出させる。	



- (7) 評価 ア 流れに沿って、自分自身で意志決定ができたか。
 イ 多種多様な生活情報の中から、目的に合った適切なものを選択して活用することができたか。

(8) 授業後の考察

本時は、第1学年の男女共学、班別クラス（男子9人、女子13人）で行った。

ア KJ法を用いて物資・サービス等の購入例を考えたところ、生徒は興味を持って臨み、主体的にポイントをまとめていくことができた。

イ 本校では1年次で情報処理（2単位）を履修していることもあり、フローチャートを

使用したプリントにも興味を持たせることができた。

ウ 生徒はカタログの見方がわからずに戸惑ったり、カタログに見入ってしまい時間が不足したりする者もあるので、その点を配慮した事前指導をする必要がある。

(9) 生徒の感想

ア スキー旅行に行く時は、このようにきちんと計画を立ててみようと思った。

イ スキーに行くにはお金がたくさんかかることを知った。予算を考えたり、その時に必要な費用を考えたり、結構大変だった。

ウ 何気なく見ているカタログにも、たくさんの情報が詰まっていることが分かった。

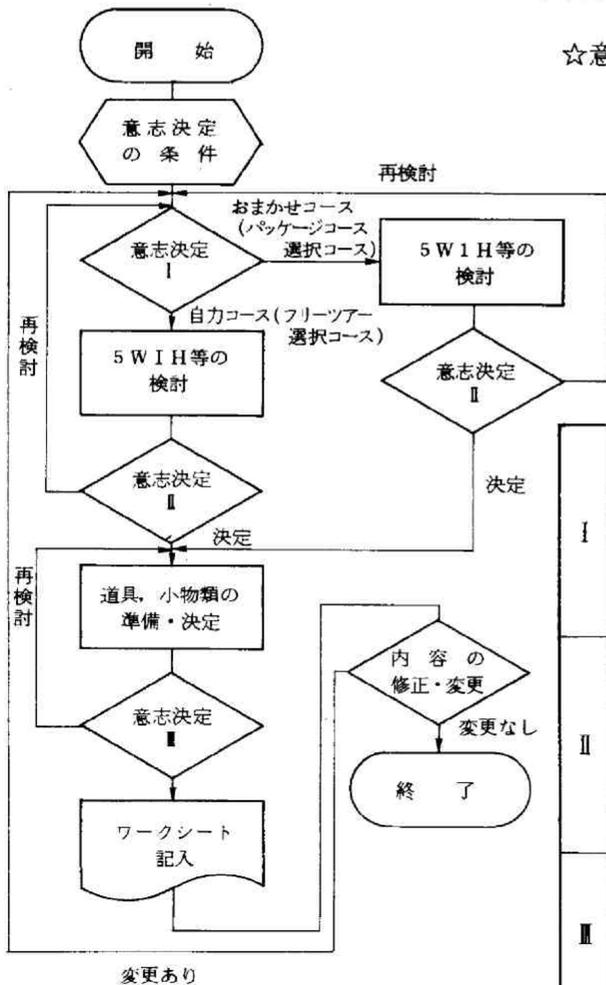
(10) 資料(フローチャート)

『スキー旅行に行く』意志決定の手順

☆意志決定の条件…『スキー旅行に行く』
前提で、必要な資料が揃っているかどうか、確認する。

☆意志決定の際に行き詰まったり面倒になったら、戻って検討し直すこともできる。

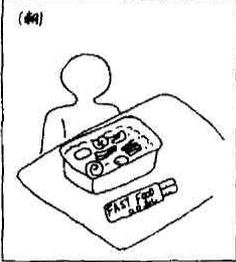
意志決定の内容



I	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで全て計画して、オリジナルのスキー旅行をする→自力コースへ 既製の商品(ツアーなど)から、自分の条件に合うものを選ぶ→おまかせコースへ
II	<ul style="list-style-type: none"> 自分の求める5W1Hに合うものがあるか検討する。(wher wner who what why how) 費用の検討, サービスの検討
III	<ul style="list-style-type: none"> 板, ウェアー, 小物類等 購入 or レンタル 宅配サービスを利用するか スキースクールに入るか

〔事例3〕 豊かで充実した食生活について考えさせる事例

- (1) 題材名 人間と食事のかかわり
- (2) 題材設定の理由 近年は生活環境が大きく変化し、食生活様式や食パターン、食行動、それに、栄養摂取状態も著しい変化を見せている。豊かになったように見える食生活であるが生徒の食生活をみると、一人で食べる孤食や家族と異なったものを食べる個食など、従来にはない現象が見られる。こうしたことが日常化すると、人とのつながりを深めるといふ食生活の役割を十分果たすことができないのではないかと思われる。そこで食領域の導入として、人間と食事のかかわりについて考えさせ、人間が食事に求めるものについて認識を深めさせるとともに、豊かな食文化の担い手として食生活を大切に考えようとする意欲と態度を培うことをねらいとして、本題材を設定した。
- (3) 学習目標 ア 人間が食事に求めるものは何かを知る。
イ 豊かで充実した食生活とは何かを考える。
- (4) 本時の展開(2時間)

区分	学 習 活 動	時間 (分)	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入	本時の目標を知る。	5	○人間と食事のかかわりについて学習することを知らせる。	
展 開	人間が食事に求めるものは何かを知る。 ・〔食事風景〕から気付く食事の様々な要素 【食べたもの、器、配膳テーブル、椅子、食事をした人、テレビラジオ、新聞等】 食事の果たす役割・機能について考える。	25 20	○プリントを使って、感じたこと、気が付いたことを話し合わせ記録させる。 ○絵に書かれている物を、あげさせ、その一つ一つが食事の状況を表現していることに注目させる。 ○主な意見を板書する。 ○食事には、食欲を満たすことその他に、食事を通して人との結びつ	プリント 「食事風景」 (足立己幸 「食生活論」より) 

〔事例4〕 住居の在り方を通して、家族のつながりについて考えさせる事例

(1) 題材名 住居と家族

(2) 題材設定の理由

住居は生活を営む基本の場所であり、家族の絆を深める場所である。しかし、情報化の進展に伴い、テレビや雑誌などのマスコミを通して伝えられる住居の情報は氾濫しているが、生徒の多くは外観や空間の豊かさ・美しさばかりに目を奪われている傾向にある。また一方、現代の土地事情もあってか家族が理想とする住居を得ることは難しい状況にあることも確かである。

そこで、家族を中心とした生活空間を考えることによって住居の機能を理解させるとともに家族相互の理解を深めさせたいと考え、本題材を設定した。

(3) 学習目標

ア 生活空間の配置が家族の生活に影響を与えていることを理解する。

イ 住居の学習を通して生活空間が人間を育てることを理解する。

(4) 事前学習

雑誌や広告等から「私の理想とする家」を選んで提出をする。その際、なぜ選んだのか理由を書く。

(5) 本時の展開(2時間)

区分	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入	住居と家族について興味・関心をもつ。	5分	○ V T Rを使用し、学習意欲を高める。	V T R資料 サザエさん
展 開	「私の理想とする家」を選んだ理由を発表する。	7	○ 意図的指名をする。 ○ 要点を板書する。	ワークシート
	生活空間の配置と家族の生活についてグループで考える。 グループごとに発表する。	38	○ 3種類の間取りの特徴とそこに生活する家族の日常生活や家族関係などを想像し、まとめさせる。 ○ 要点を板書する。	ワークシート 模造紙

展 開	「家族の関係を踏まえた間取り」について考える。	40	<ul style="list-style-type: none"> ○一般的な生活空間の分類を示す。 ・個人生活の空間 S ・家族生活の空間 L ・家事サービスの空間 K ・生理衛生行為の空間 P ○各生活空間をブロック配置させる。 	ワークシート 生活空間ブロックキット のり・はさみ
ま と め	本時の学習をまとめ、発表する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートにまとめさせる。 ○間取りについて改善点を見つけることができたか確認する。 	ワークシート

(6) 授業後の考察

本時は第1学年(男子21名 女子20名)で試行的に実施した。そして、次のことが分かった。

- ア 導入段階でVTR資料の活用を図ったことにより、家族についての興味・関心が増し、以後の展開がスムーズに行えた。
- イ 3種類の間取り図から特徴をまとめさせる学習活動は、間取り図を見やすくしたり、発問を工夫することにより、生徒の理解を深めるようにする必要がある。
- ウ 生活空間ブロックキットの活用は本時の学習を深める上で効果的であった。男子生徒も意欲的に学習に取り組み、熱心にキットの配置をしていた。
- エ 今回の学習は住居の導入として行ったが、住居学習がすべて終了した後、まとめとして本事例を扱うことも効果的と思われる。

(7) 生徒の感想

- ア 家庭科を男子と一緒にやるのは初めてで、楽しかった。家について新しい見方ができてよかった。
- イ 家族生活の場所は多いよりむしろ一か所に集まる方がよいと思った。
- ウ 将来のために役立ったと思う。1階は皆んなで話しをしたりテレビを見たりしたい。個人の部屋は2階に作ってゆっくりしたい。

(8) 資料

「家族の関係を踏まえた間取り」

1年組 〆 氏名

S：個人生活の空間
L：家族生活の空間
K：家事サービスの空間
P：生理衛生行為の空間

<1F> <2F>

(生活空間をブロック配置した理由)

- リビングは、広くて日当たりのよい場所で多目的に使いたい。
- また、ここで家族が顔を合わせる機会を多くしたい。
- 姉、弟の関係を深めるために子供部屋をならべた。

〔事例5〕 結婚についてのディベートを通して、今後の生き方を考えさせる事例

- (1) 題材名 人生と結婚
- (2) 題材設定の理由 生徒にとって関心の高い結婚をとりあげ、将来の自分の生き方を見つめさせ、これからの男女の関係や、人とかかわりをもって生きることの大切さ、結婚の意義などについて考えさせるため、本題材を設定した。
- (3) 学習目標
 - ア 人生における結婚の意義を認識する。
 - イ 人生設計を立てる上で、自立とは何かを理解する。
 - ウ 人とかかわりをもって生きることの大切さを理解する。
 - エ 多様化したライフスタイルの中から、自分らしく、人間らしく生きるには、どうしたらよいか考える。
- (4) 事前学習 結婚についていろいろな観点から調べ、ディベートができるよう準備する。
- (5) 本時の展開(2時間)

区分	学習活動	時間	指導上の留意点	備考
導入	本時の学習目標を確認する。	(分) 10	○仕事・結婚、老後を踏まえて、どんな人生を送りたいか考えさせる。	

展 開	○人間として自立するとはど ういうことか考える。	○現在の自分をふりかえらせると もに、精神的な側面と経済的な側面 の両方の自立について、具体的に考 えさせる。	
ま と め	本時のまとめ これからの人生において大切 なことは何か、人間らしく生 きるとはどんなことか記入用 紙に自由記述する。	20 ○健康に生きる、人間関係を豊かに する、自立することが重要であるこ とを認識させる。 ○人として生きていくということは いろいろな人々とかかわって生きて いくことであることを知り、今何を すればよいかを考えさせる。	記入用紙

(6) 授業後の考察

ディベートの進め方の配慮点として、①ディベーターはあらかじめ決めてしまうと、他の生徒は何も準備しない恐れもあるので、誰がディベーターになってもよいよう準備しておくことを全員に指示し、授業の直前に決定するようにした。②ディベートの間、傍聴者には記入用紙を配布し、両方の意見を整理させ、自分の最終的な意見と授業の感想を自由記述させた。③ディベートの勝敗は、議論のたたかわせ方であって、自分がどちらの意見に賛成であるかを問うものではないことを周知させることが大切である。

クラスによって議論のポイントが、育児、婚姻届などの法的手続の問題、愛情など精神的つながりに分かれた。ディベート後の授業展開は、出された意見のいくつかに絞って授業を進める方法が効果的であった。

この論題は、最終的に個人の価値観によるものなので、他の人の意見を聞き正しく理解できること、自分の意見を適切に表現できることが、重要なカギとなると考える。

(7) 生徒の感想

- ・両方の意見ともしっかりしていて白熱したディベートだった。いつもの授業と違ってとても楽しかった。
- ・結婚はまだ先のことと思っていたのに、人ごととは思えなくなってきた。考えさせられた。
- ・いろいろな人の結婚観をみることができ勉強になった。自分の将来について皆で意見交換でき楽しい授業だった。

〔事例6〕 ロールプレイングを通して親の在り方を考えさせる事例

- (1) 題材名 子供の自立と親の役割
- (2) 題材設定の理由 第二の誕生といわれる青年期前期は、「自立と依存」に揺さぶられながら成長していく時期である。「子供の進路」という場面設定での親子の葛藤を「ロールプレイ」で感じ取らせ、精神的・肉体的に成長著しい子供が自分の人生を所有し、自分の力で切り開いて行ける「自立した人間」に育つために、親にはどんな能力が求められているのか、考えさせるため本題材を設定した。
- (3) 学習目標 ア ロールプレイを通じて、親の立場・子の立場を客観的にとらえる。
イ 子供の成長に応じた望ましい親の在り方を考える。
- (4) 事前学習 「ロールプレイ」の役者5人には場面設定表を渡し状況を伝えておいた。
- (5) 本時の展開(2時間)

区分	学習活動	時間	指導上の留意点	備考
導入	本時の学習目標を知る。	(分) 5	○机を後方に下げ円形にすわる。	
展開	ロールプレイ①を観察する。 親役と子役の言葉に注意を むける。 観察表に○を入れる。	15	○場面設定を知らせ、状況を把握させ、父母役を登場させる。 教師が子役をし、見本を示す。 父母役に「演じてどんな感じがしたか」発表させる。	場面設定表 親役用キーワード表 A ロールプレイ観察表
	ロールプレイ②を観察する。 親役と子役の言葉に注意を むける。 観察表に○を入れる。	10	○父母役、子役を登場させる。ロールプレイ①と異なる親の態度で取り組むことを伝える。父母役、子役に「演じてどんな感じがしたか」発表させる。	親役用キーワード表 B ロールプレイ観察表
	ロールプレイ①と②の比較 検討をする。 ①と②の特徴を板書する。	20	○グループに分ける。記録1名を決める。観察表を元に感じたことをグループ内で発言させる。 机を元に戻す。	

展 開	親の態度と子供の変化に気付く。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロールプレイ①②の解説をする。 ①は分身型②は受容型であることを伝える。発達段階に応じて受容の表現が変わることを話す。 	親の養育態度 <ul style="list-style-type: none"> ・分身型（過保護・溺愛など） ・付録型（拒否・放任など） ・受容型など
	親の態度から引き起こされた子供の問題行動を知る。「子どもの権利条約」の主旨を理解する。第五条を知る。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立を阻害された子供の問題行動を伝える。 ○ 「子供が自立した人間となるための援助」の主旨を伝え第五条「親の指導の尊重」知らせる。 	新聞の切抜き資料 子どもの権利条約資料
	子供が自分の人生を所有し、自立した人間に育つために親に求められる能力は何か考える。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 付箋紙に「親に求められる能力」を3つ書かせる。KJ法によりグループ内でまとめさせる。 	付箋紙 マジック マグネット 模造紙
ま と め	「親に求められる能力」について把握する。 詩を音読する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供に対する愛情を持ち、それを伝える能力 ○ 子供の人格を尊重する力 ○ 子供の変化や心の動きをキャッチできる感性 ○ 子供の成長や発達についての理解 ○ 親自身の欲望を自制する力 ○ 安定した経済基盤 ○ 子供の日常生活を援助する力 	詩「親は矢、子は弓」

(6) 授業後の考察

「ロールプレイ」は笑い声が混ざり合う中で和やかに楽しく取り組めた。観察している生徒は、子役の言い分が日頃の自分と重なるものがあるのか「あの気持ちよく分かる」と共感を示していた。親に求められる能力をKJ法でまとめさせたところ、生徒が主体的に活動し効率よくまとめることができた。机を後方に下げ円形に座る配置はリラックスした雰囲気を作り発言を促すメリットがあった。

- (7) 生徒の感想
- ア ロールプレイは、親と子の立場の違いを客観的に見ることができた。
- イ 円になって授業したのはおもしろかった。子供への接し方もこんなに理論的に考えると、親というものは一番難しい職業なのかも知れない。
- ウ 自分一人だと思いつかないこともグループで一緒に考えたり、人の意見を聞くことで学ぶことができた。
- エ もっと多くの人ロールプレイに参加したほうが良いと思った。

(8) 資料

場面設定表

☆子供（良夫 16歳 高校一年生）

1. 音楽が好きで将来ミュージシャンになりたい目標を持っている。
2. 音楽仲間の評判が良く、少々自信がうまれてきたところ。
3. 今、学んでいる勉強は将来の目標には役立たないと思っている。
4. 高校を中退して、本格的に音楽の勉強に励みたい。
5. 音楽学校へ入学したい。そこでどんな苦しいことがあってもやっていきたい。
6. 親に相談して、もし高校中退を反対されたら、仕方がないから高校くらいは卒業しておこう。
7. 大学へは、進学しない。親に言われても大学には行かないと強く思っている。音楽学校へ行く。

☆父母（父 50歳 会社員 母 49歳）

1. 良夫には高校・大学まで卒業して欲しい。
2. 良夫は最近、音楽に熱中していて勉強の方は大丈夫だろうか。心配である。音楽は趣味の範囲でやるものだ。
3. 良夫は「高校中退したい」と言っているが、とんでもないことだ。進学したくとも行けぬ子供がいるのに。
4. 「音楽で生計を立てたい」と言う良夫は夢を見ているに違いない。
5. 世間は依然として学歴社会である。良夫が道を誤らぬよう方向を示してやらねばならない。

ロールプレイ①親役用キーワード表A

1. 1～5をもれなく伝える。
2. 子の言い分は聞く気がない。なるべく聞かない。
3. 思ったことを自由に言って良い。

ロールプレイ②親役用キーワード表B

1. 子供の言い分を聞いてあげようとする態度
2. 心を汲む言葉「高校を中退してまでも音楽をやりたいんだね」を受け止める。
3. 高校中退した場合に予想されることを伝える。（現実や経験等の情報を提供）
4. 良夫に大学進学をのぞむ理由を伝える。（具体的に）
5. 「良夫を一人前にするまで、親としてできる限りの援助はするからね」

■ 研究のまとめと今後の課題

本年度の教育研究員は、人間としての在り方生き方を考えさせる家庭科の指導をテーマに家庭科教育を通して、家族の在り方や自己の生き方を考え、豊かな心を持ち、自己実現を図ろうとする意欲的、創造的な態度の育成を目指して研究した。

研究を進めるうちに、家庭科教育の学習対象である家族や家庭生活、日常生活の充実が人間づくりの基盤であることを再確認し、家庭科で在り方生き方教育をすることの重要性を確信した。その上で、生き方教育の指導に当たり指針となるものの検討を行った結果、ハワイガーストの青年期の発達課題を踏まえ、高等学校家庭科における発達課題を作成し、これを本研究の中心に据え授業研究を通して検証した。

生徒の意識調査からは、生徒自身が学校教育に生き方や人格形成についての指導を求めていることが確かめられた。また、考え方や生き方への影響度では、親からの影響を強く受けていると答えており、親の役割の重要性を痛感した。家庭科教師のアンケートからは、家庭の教育力の低下や生徒の無気力、人間関係の希薄さなどの状況を身をもって感じていること、そのため、生き方の教育を重視して既に実施しているがその指導の難しさなどが分かった。

そこで、高校家庭科における発達課題を生徒が適時に獲得するよう次の点をねらって授業研究を行った。事例1では、働く人たちの職業観、人生観に触れ、自分の職業について考え今何をなすべきかを考えさせた。事例2では意志決定の手順について考えられるよう、生活情報の活用のシミュレーションを展開した。事例3では、共に食べる喜び、他の人のために作る喜びなど、人とのつながりを深める食生活の役割について認識させた。事例4では、生活空間が家族の絆を深めることに気付かせ、家族のつながりを考えた住空間を作成させた。事例5では、結婚についてのディベートを行い、今後の生き方を考えさせた。事例6では、生徒に身近な進学というテーマで親の在り方をロールプレイングにより考えさせた。それぞれの事例で示したように、生徒は新しい興味と関心を持ち、学習に積極的に取り組んだ。

しかし、家庭科における在り方生き方の指導に当たっては、教師自身の家族観・人生観・生活観が問われることになる。教師自らの生き方を、生徒に提示することは大きな意味をもつ。それが意図的であろうとなかろうと、生徒が身近な大人から有形無形の影響を受けていることは、アンケートの結果が語っている。時としてそれが生徒の人生観の基礎となることである。したがって、教師自身が自らの人生を真剣に責任をもって生きていくことが求められる。今回の研究では、学習過程における創造力や思考力、課題解決能力、学習への意欲や関心・態度などの適切な評価については、深めることができなかったが今後の課題とする。